

貳拾萬圓の改良工事を進め得べく、來年度は或は貳百萬圓程度の工事を施し得るやも知れず、斯くて地方又道路兩側の地主或は自動車所有者等夫々適當なる策を樹て、前述の方法に準據すれば都鄙を通じて五六ヶ年にして全國道路の面目一新するに至るべし、徒らに政府の施設に依頼せず斷乎として自治改善の本領を發揮するを最も道路改善の捷徑なりと信ず、公債發行、加重税金の徵集其他必要なる法規制定のみを當局に建議せば足る問題なるが故に此際輿論を喚起して此一途に進進する機會の速かならんことを只管冀求して止まざる次第なり。

青森縣農會副會長 阿部 武智雄

農村救済策と道路問題

農村の疲弊を救済する二策

農村今日の疲弊を救済せんとするには、第一農産物の價格を經濟的に販賣すると、第二肥料其他の購買品を低廉に使用する農家の經濟を潤澤ならしむるにあるは尤も見易き方法にして、此二途は道路の善惡に依り甚しき差違を生ずるは議論に非ずして實際問題なり、鐵道停車場港灣等の利

便は全く農村と遠ざかる事多く、加ふるに明治八年改租の場合はその利便を參酌せるも、近來の諸稅賦課方法は此の點に毫も加味する事なし、交通不便の片田舎のものは益不理に陥り、住居地として立行かざる困難の處さへある實情なり、元來國土として國道は大門脈で縣村里道は支脈血脈なり、されば健全なる國土の發達を期せんには、血液循環の圓滿ならしむるに道路の開鑿、路面の改良程大切急務なるは非らざる可く、如何なる山間僻地なりとも、一度鐵道停車場を設置せば忽ち商店設立繁盛するは明なる事實であれば、農村今日の疲弊を救済する方法として道路開鑿改良するは第一の要件で、道路宜しければ運送賃低廉に輸送し得るを以て隨て其利益は元價に及ぼす故に、現下の農村救済策としては道路問題に直接關係ある緊要方法は非ざるべし。

小運送と道路問題

道路の遠近善惡の關係は運賃に基き

差違あり

前言既に詳述せる如く、停車場又は港灣へ交通せんには、田舎の道路程必要なるはなし、貨物の集散上に此の道路に依る其道路の遠近善惡の關係に依り其運賃に甚しき差違あり、

隨て販賣購買の價格に直接の影響を及ぼす事は、鏡の寫るに均しきは見安き事實で、中にも本縣の如き積雪文餘の土地に於ては、道路に依らざれば一步も踏出し難く、運送上甚大の關係ある道路程大切なるは非らざるべく、鐵道又は港灣と雖も其營養微なる田舎の小運送の道路程開鑿改良の必要あらん。

財政緊縮の爲道路工事を中止又は繰延す

の可否

道路事業の中止繰延の如きは全く非文

明的なり

財政は整理緊縮すべきであるも、産業の發達を阻害し國運の進展を阻止すべきに非ざるが故に、妄りに緊縮せば即ち産業萎縮し國家は終に衰亡せんのみ、道路の善悪は文化程度の反影なり、遺利依て以て興り産業依て以て發達す、一日も忽にすべからざるは、道路の開鑿又は改良なり、若し夫れ歳入の伴はざるあらば、例令國債によるもよし、中止又は繰延すべき性質のものに非らざるなり、況んや繼續事業の如き一度着手せるものをや、抑道路工事の如きは早急に出來ざるなれば、財政整理根本政策の定らざる間は宜しく繼續して從來の方針に依り進行すべきことは國防上より看るも亦當然の事な

る可し、運送上機械の應用益々進歩する今日道路の舊態昔日の如き封建割據の國防其儘を國縣界に存立せしむるの必要も無かるべし。今日道路改良事業を中止又は繰延の如きは全く非文明的であつて、文化に遠ざかる國運の退歩ならん。

地方財政と道路問題

地方費と雖道路の如き産業上直接の關係あるものは減少すべきものに非ず

本縣の如き貧弱なる縣財政を見るも、明治四十年頃は地方稅百廿萬圓程度なりしか、大正三年頃は百七拾萬圓に上り、十年に至り三百五十萬圓、十三年現在は實に四百六十九萬九千圓の巨額に増加したれば、整理緊縮の餘地なしとは斷言せざるも、翻て土木費を見るに八十七萬二千餘圓で、其内道路費は僅かに五十八萬千餘圓に過ぎずして、此の道路は國道四十里餘、縣道四百八十五里餘、町村道五百三拾四里餘、一里の工費（二千百六十一圓）僅一千餘圓に過ぎずして、辛うじて小破修繕を爲し得るのみ、本縣は元郡道二百二十四里ありしが郡制廢止の際百五十里は縣道へ編入せるも、七十四里は町村道に編入され故に市道二十里町村道二千三百六十四里の多きなり。其他里道あり、耕作場道あり、是等の各道相互に連

絡を取り相共に完全ならざれば、運輸交通の利便を得難く、其内何れか大破せんか往來杜絶の止むなきに至る。本縣の如き春秋雨量多く初冬嚴寒に際し道路面深く氷りて初春氷解する地方は根本より破毀せらるゝ故、全く年々新道を造るの費用を要す。元來土木は中産以上の重立者より税を徴收し、勞働者の賃金となり其結果運輸交通の完成を爲すものなれば天災又は凶歲等の場合は特に救濟事業として此種の企工を爲すは施政の方策にして前例の屢々ありし事なり、今日の場合斷じて地方費と雖も道路の如き産業上直接の關係あるものは減少すべきものに非らず、益々工費を増加して道路改良を計畫すべきは國民一般の希望で、地方財政を根本的に整理せんと欲せば産業上大關係の道路の如き決して減少すべきに非らず、道路工事を中止又は繰延する故に道路の從來貨物の輸送をも制限し得るか、如斯は愚に非らざれば狂なり、更に進んで論せば政府は地方財政整理上第一衆議院議員選舉費、第二司法警察費、第三衛生費中の癩病療養費、傳染病予防費、第四國道費を國費に移管せば地方費の餘力とならん、甚しき哉國は河川に對し少額の費用をも出さず、しかも河川より道路修繕用の砂利を取る場合取採料を納附せしむる事等の不合理なるあり、速に改正せしむる必要あらん。

横濱商業會議所會頭 井 坂 孝

財政緊縮の爲道路工事を中止又は繰延する

の可否

財政緊縮を必要とする場合は二つある(一)は現狀の儘にて、財政は立行かないのではないが冗費を省き一般經費を一層有効に使用する爲め緊縮を行ふ場合と(二)は國家の財政が此儘にて到底立行かざる爲め絶対の緊縮を必要とする場合とである、現在の我國は其何れに該當するやは當局者が明示しないから明かではないが蓋し前者に非ずして寧ろ後者にあることは何人も疑はぬ所であらう。

果して然らば節約費目の取捨撰擇の如きは問題でない。苟も之を爲し得て國民目前の生活に差支なき節約は之を斷行して財政の立直しを行ひ國家の歳出入が合理的の均衡を保つに至り更に餘裕を生ずるに至つて初て其餘裕を使用すべき費目を取捨撰擇すれば可なるのである、世人は往々單なる緊縮は國家の進運を阻止するものとして之を非難すれども今日に於て國家の進運は民間に於ける國際的經濟上の發展以外には之れなしと信ずるのである、然るに民間に於て國際經濟上の發